

教員養成に対する理念

21世紀の学校改革を支え教師教育改革を実現する学校拠点の連合教職大学院

福井大学においては、附属学校における教員と大学の研究者との授業研究・カリキュラム開発の協働研究の蓄積を基盤に、平成13（2001）年、学校拠点の実践研究を軸とする大学院のコース「学校改革実践研究コース」を開設し、さらに平成20（2008）年にはこのコースでの取組に基づき教職大学院制度の発足と同時に大学院教職開発専攻（教職大学院）を出発させた。この専攻は21世紀における地域の学校改革と教師の協働実践を支えることを目指し、以下のような学校拠点の実践研究を中心とするカリキュラムによって構成されている。

- ①拠点校において学校の直面する課題に長期的に取り組む実習
- ②それに密接に関わり学校拠点で進められる長期実践研究プロジェクト科目
- ③そうした実践の展開を省察し、相互に検証し、展望をひらく実践省察のカンファレンス
- ④実践研究の課題を掘り下げ、組織的に探究・研究し、基礎理論を吟味する集中講座
- ⑤実践と研究の長期的な展開を跡づけ、評価し展望をさぐる長期実践研究報告
- ⑥長期的な実践を学校・地域を越えて広く交流・共有し、検討し合う実践研究交流集会

学校拠点方式と呼ばれるこうしたカリキュラムとその編成態は教師教育の高度化の重要なモデルとして評価されてきているが、カリキュラム・マネジメントとFDを含む大学の組織改革と成員の力量形成なしには実現することが困難であり、こうした取り組みが拡大していく上での障害となっている。今回の連合大学院は、特色ある三つの大学が協働のカリキュラム・マネジメントと実践的なFDの組織を実現することにより、学校拠点の教職大学院をさらに広く拡大し、発展させていくことを目指すものである。

